

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4月20日～

先週は米国とイランの停戦交渉に対する期待から株価は大きく上昇し、日経平均、米国のナスダックやS&P500などの株価指数も史上最高値更新となりました。

ただし、現状を考えると株価上昇はやや違和感があり、交渉が上手くいかなかった場合に反動で一気にリスク回避の動きが加速する可能性もあります。

トランプ大統領のコメントとイランの言い分がかなり食い違っています。

ホルムズ海峡は自由に航行ができる状態にはほど遠く、ほとんどの船は今も身動き取れない状態にあります。

為替相場はドル安が少し進み、ドル/円も1ヶ月ぶりに157円台半ばまで下げました。

ただし、円安要因がなくなったわけではなく、円高・ドル安の動きも限定的になりそうです。

為替相場は方向感があまりない状態が続いています。

株価は連日乱高下していますが為替相場はドル/円もクロス円も高値圏での推移が続いています。動きがなくなってくると、その後に大きくトレンドが発生することがあるためポジションを大きく傾けずにこまめに売買していきたいです。

今月後半には中央銀行のイベントがあるため為替相場は金融政策次第で方向感が出るかもしれませんが。日銀が利上げに動くかどうか注目されています。

中東情勢が不安定なため利上げは見送りという意見も多いですが、日本の物価高や実質金利がマイナス状態となっていることから、日銀が利上げに動く可能性もゼロではありません。

地政学リスク、金融政策、経済状況など色々なニュースを見ながら、最終的にはテクニカルで判断してのトレードを心がけたいです。

株価は上がっていますが実体経済は厳しさが増えています。

ホルムズ海峡の閉鎖が来月以降も続くようだと世界経済は大きく後退するリスクが高まります。

米国とイランが出す情報が全く違うことも多く、事実を確認する必要があります。

21日には停戦の期限を迎えます。交渉を続けるのか再び戦闘に戻るのか見えない状況です。

ニュース次第で今週も大きく相場が荒れる可能性があります。

原油価格と株価が不安定な動きとなっているためリスクが高い状態が続きそうです。

有事のドル買いが弱まってきているように見えるためドルと他の通貨との強弱関係にも注目したいです。

21日には次期FRB議長のウォーシュ氏の公聴会もあります。

また、トランプ政権の関係者の多くがエブスタイン氏と親密な関係にあったこともエブスタインファイルから明らかになっており、政治関連のニュースも注意しておきたいです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### ● テクニカルで見た重要ポイントは？

#### <ドル/円>

ドル/円はじわじわと下げています。

週末には少し戻して158円台で終わっていますが、基本的にはレンジ相場のような動きが続いています。

3月中旬以降、157.5-160.5円程度のレンジを動いているためレンジ内での動きが続くかどうか注目したいです。

上値は158.8円を超えてくると159.5円あたりが意識されます。

ここも超えてくると160円台が視野に入ってきます。

下値は157.5円を割り込むと156円あたりまで下がる可能性があります。

#### <気になるクロス円>

クロス円も先週は上昇しているペアが多く、ユーロは188円あたりまで上昇しました。

スイスフランや豪ドルも高値更新の動きとなっており、ドル/円よりもクロス円の上昇がどこまでいくのかが気になります。

クロス円は株価に連動しやすく、週明けから株価が大きく下落すれば先週の上昇が一転して、大きく下げるリスクもあるため動きに注意したいです。

下げてきた場合は、下げ止まるまで買いはしばらく様子見が安全です。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

#### <今週のファンダメンタル？>

日本では3月貿易統計、3月全国消費者物価指数などがあります。

米国では3月小売売上高、3月住宅販売保留指数、前週分新規失業保険申請件数、4月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、4月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで4月ZEW景況感調査、4月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏でラガルド・ECB 総裁発言、ドイツで4月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、カナダと英国で3月消費者物価指数の発表などがあります。